



第22号
平成9年
1997

会報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご挨拶	同窓会 会長 寺田 郁雄	1
ご挨拶	学 校 長 尾崎 翹彦	2
学校近況	教 頭 大谷 修二	3
進路状況について	進路指導部長 林 幸男	4
大阪支部だより	浜崎 満良	5
京滋支部だより みんなで楽しむ支部活動を!! 本年度より年間六行事を開催	田村 武夫	6
中京支部だより 出稼ぎサラリーマンの郷愁	沖本 毅	7
関東支部だより	松本 四郎	8
高知支部だより ご挨拶と思いつくまゝに	井上 健弘	8
須崎支部だより 須崎支部活動報告	坂本 操	10
第5回ソフトボール男子ジュニア世界選手権大会に参加して	村上 大和	11
民俗学をやりたくて	常光 徹	12
相撲部OB会を開催して	中川 守	13
事務局だより		14
平成8年度決算並びに平成9年度予算		15
会報届先不明者		16
終身会費納入者(1年間分)平成8年10月1日～平成9年9月30日		18
平成8・9年度役員		19

表紙写真説明…………ソフトボール男子ジュニア世界選手権大会
(試合中の村上大和投手)

平成10年度 同窓会総会 及び 懇親会のご案内

この度、平成10年8月に同窓会総会の開催予定しております。下記の日程で計画中です。会員の皆様方の多数のご出席をお願いします。

記

年月日 平成10年8月9日(日)

時 間 午後4時より

会 場 JAくろしお3階ホール(須崎市大間本町14-26)

TEL (0889) 42-1751

※ご出席いただけます方は、添付葉書にて、6月末までにお送り下さい。

尚、平成10年度に入りましたら各支部や職域よりも、総会出席の案内もいたします。

ご挨拶

昭和21年機械科第一種卒

同窓会会長 寺田郁雄

同窓会の皆さんお元気で日夜御活躍のこと、御慶び申し上げます。

会員の皆さんには、日頃より同窓会活動に御理解をいただき、何かと御協力を賜り、誠に有難う存じます。衷心より厚く御礼申し上げます。

扱て、母校は、尾崎校長先生の御指導のもと、諸先生方の献身的な御努力により生徒諸君の品位はもとより、学力の向上も、目をみはるものがあり、本年四月開学の高知工科大学に進学をはたしており又、全国有名企業にそれ／＼就職いたしております。

ほんとに、喜ばしい限りであり、心より御慶び申し上げます。

会員の皆さんには、すでに御案内のとおり、母校では日系フィリピン人支援の会より依頼を受け、ボランティア活動と国際交流の一助として、全長十一米、幅二・五米、総屯数五屯、の近代装備の救急患者輸送艇をフィリピンネグロス島に贈るため建造を進めております。

想えば、我が国は先の大戦を終戦という名のもとに、終結し、その後破綻のどん底より立ち上がり、今や経済大国として平和な日々を約束されておるわけですが、その反面遠く南の地、フィリピンネグロス島では、今なお戦争の犠牲となった我々の同胞が、困窮に苦しみ、過酷な条件の中、かろうじて生きて

おられると伝えられております。

それは、今日の我々には、想像を絶するほんとに悲惨な状態でありましょう。

本年六月八日の本部理事会に於きまして、母校、

尾崎校長先生より救急艇建造の経緯の御説明があり、学校としては成り行き上、予算面で大変苦慮しており、御願ひできることではないかも知れないが協力していただけないだろうか、と資金協力の御依頼があり、協議の結果、微力ではありますが、同胞に対する当然の責務であり、又須工で造った船が速くフィリピンで雄飛することは、国際交流理解促進の絶好のチャンスであり、これこそ母校の隆盛につながるものとして、全会一致で御協力申し上げますことに決定いたしました。

つきましては、各支部、会員各位には、何かと出費の多い時節ではありますが、何分の御協力のほどよろしく、お願い申し上げます。

また当日理事会では、重要案件ごとごとく承認、決定されましたことを御報告申し上げます。

特に、会則のつとり、平成十年八月九日(日)を期して、本部総会を開くことに決定いたしました。

尚日程等につきましては、平成十年通常理事会にて協議いたすことになっておりますので、皆様方には公私とも御忙しい時期ではございますが、御繰り合せの上多数の御出席を御願ひ致します。

当日は、新旧の会員が一同に会し、今後、決して順風とはいえないと、懸念されております母校の将来について、須工で育った者として腹藏なき意見を交そうてはなりませんか。

須崎は懸案のバイパス工事も、全域用地買収も終り来年には一部供用となるようですし、高速道工事も、須崎・伊野間の工事も、急ピッチで施工されており、又高知新港も来春には一部開港されるようであります。

このように時代は、二十一世紀にむかって、急テンポに進展しております。

このような時にこそ我々須工同窓会としましては時代にとり残されないよう会員相互、横の連絡をとりあい、友情の輪を広げながら、社会活動の中でも互いに切磋琢磨し、そして助けあつて互いの繁栄を計りながら同窓会活動を活発に行い、母校の隆盛に協力申すべきではないかと推察いたす次第であります。

終わりに臨み、第二十二号会報「にしきうら」発刊に際し、御努力されました、事務局の先生方並に関係各位の御協力に対し心より感謝いたしますと共に、御礼申し上げます。

母校の更なる隆盛と会員の皆様方の御健勝を衷心より祈念いたしまして御挨拶いたします。



ご挨拶

学校長

尾崎 翹彦

同窓生の皆様方には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、本校の教育発展のためにご協力ご指導いただき心よりお礼申し上げます。

さて、学校を取りまく教育の分野は、いまだ大変急激な変化や改革が行われようとしています。

国はもとより、高知県においても「土佐の教育改革」ということで、様々な提案や改革がなされています。

本校におきましても、多様な特性や進路希望を持った生徒が入学しており、それに加え社会環境も大きく変化し、高等学校のあり方がいま改めて問われているところであります。

しかし、本校は工業高校であり、その使命は「物を作る」ということが教育の基本であると考えています。

ある書物の中に、現代の子供は親の仕事で「動詞」で語れないと言う文章を読んだことがあります。仕事を「動詞」で語れることの意味は、何であらうか。「鉄を削る」「船を造る」「薬品を製造する」「電気工事をする」これを見ても働く人の姿が見えており、汗を流して働く苦勞が見えています。

「サラリーマン」「会社員」と表現されたとき働く人の姿や汗が見えない、現在の日本では「産業の空洞化」が大きな問題となっています。

私たちは、「物作り」の価値を失った社会は、地道に物事に取り組み根気強く作り上げる努力を評価しないから、価値観が一面的に親の汗する姿を見ることなく「ホワイトカラーがいい」という価値観のもとでしか生きていけない子供たちを作っているのではないかと思っています。本校では現在、造船科及び造船クラブにおいて、国際交流及びボランティア活動の一環として、フィリピン・ネグロス島に救急艇（全長11m、幅2.5m、5t）を建造し贈ることになっております。

そのために日々生徒たちは遅くまで建造に取り組み努力いたしています。

これこそまさに「物作り」であり子供たちが将来どう生きたら良いか考えさせるための「生きる力」になると信じています。

また、多くの企業や同窓会、PTA、教員の方々から浄財をご寄付いただき心より感謝いたしております。

どうか、今後とも一層のご指導ご支援を心からお願い申し上げます。



高知工高創立85周年創立者 竹内綱・竹内明太郎先生伝記出版記念祝賀会にて（H9.7.12）

寺田会長、尾崎校長、井上事務局長

学校近況

教頭

大谷 修二

平成九年度の新しい学期がスタートしてから、半分以上が過ぎましたが、同窓会の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

学校では、本年度の教育重点目標として、「学力の向上」と「基本的生活習慣の確立」を柱に取り組んでおり、大部分の生徒達は、勉学にクラブ活動にそして資格取得に頑張っています。

本年度四月現在の生徒数は、一年生一一六名(定員は一六〇名)、二年生一二七名(定員一六〇名)、三年生一三二名(定員二〇〇名)、合計三七五名(定員五二〇名)で定員に対して一四五名の生徒減となっております、そのために幡多・南国の広い範囲の中学校三八校から生徒を受け入れていますが、生徒確保のための特色ある学校作りが課題となっております。

平成八年度卒業生の進路は、県内就職五十六名(四十八%)、県外就職六十名(中・四国十八名、関西二十一名、東海十四名、関東七名)、大学進学五名、各種専修学校十六名となりました。

学校の主な行事として、四月は一泊二日で、一年生全員が、大方青少年センターを利用して集団宿泊研修を行い、校則、生徒憲章等、須崎工業高校生としてのあり方について、オリエンテーションを行いました。

五月二十三日から県体育大会が開催され、空手道

部団体三位、陸上部砲丸投げ三位、砲丸投げ六位、円盤投げ五位、走高跳び六位となり、四国大会に出場しました。また大阪で行われたホンダエコノカー中・四国・関西大会で、機工部が第八位と健闘しました。五月二十八日に開校記念行事で、昭和三十八年三月機械科卒業生で、ワープラザ須崎旅行センター所長岡崎賀夫氏より、海外におけるマナーや習慣の相違についてご講演をお願いし、ますます進む国際化のなかで、高校生活の送り方等についてアドバイスしていただき、大変勉強になり、また感銘を受けました。続いて行われた各科対抗の恒例の綱引き大会では、昨年優勝の機械科に変わって造船科が再び王座に返り咲きました。

十月には体育祭があり、科別対抗(M、S、C、E)でアーチを作り、応援合戦等も行う本格的な内容になる予定です。

日系フイリピン人支援の会の依頼を受け、造船科と造船クラブがボランティア活動と国際交流理解促進の一環として、全長十一m、幅二・五m、五トンの救急患者輸送艇を建造し、ネグロス島に贈るために、建造を進めています。

建造に必要な原材料や資材及び装備等は、関係各機関の御協力と御支援をいただいております。資金面では、本校同窓会、PTA、高校教育課、県下の工業高校等の千百名(八月末現在)の皆様方からご協力をいただきました。

しかし、建造に要する費用が莫大なため、まだまだ予算的に大変苦慮している状態です。同窓生の皆様方に引き続きご理解御支援をお願いいたします。

教職員の変動

離任

宮崎 重行(国語)
池田 進(社会)
梶原 拓(数学)
川端 由紀(理科)
森田 和美(理科)
伊藤 真美(英語)
梅原 富子(家庭)
宮地 正実(機械)
竹村 義典(造船)
山崎 桂(造船)
多田 玲子(事務)

転出

藤田真由美(国語) 榊原高
井上 圭介(社会) 伊野商高
池田 功(数学) 須崎高本定
笹岡 緑(数学) 仁淀高
久良谷昌男(体育) 須崎高本全
藤村 幸紀(理科) 岡豊高
矢田 満城(英語) 北高通信
平川 猛光(機械) 高知工高定
長山 孝弘(機械) 宿毛工高
吉本 伸(機械) 高知東工定
小松 茂久(造船) 高知東工全
川西 輝道(電気) 高知工高定
川崎 正光(電気) 高知工高全
中越 智子(事務) 日高養護
渡辺 哲哉(美術) 室戸高
国澤 千砂(英語) 山田高全

高校総体事務局出向

井上 明 (体育) バスケット
井上日出男 (機械) 空手道
転入

寺尾 博晃 (国語) 伊野商高
吉岡 佳代 (社会) 新採
大野 英徳 (数学) 佐川高定
岡崎 俊樹 (数学) 高知南高
豊永 裕代 (理科) 須崎高本全
千頭 啓介 (英語) 高知南高
柳本 朋幸 (体育) 高岡高本全
濱田 償廣 (造船) 高知東工定
珍珠 昭浩 (造船) 高知東工定
藤原 章弘 (電気) 高知東工全
安田 由紀 (事務) 窪川高定
佐竹 真紀 (国語) 講師
池田 進 (社会) 講師
田中 祐子 (英語) 講師
岡林 美樹 (英語) 講師
竹下 明宏 (体育) 講師 (OB)
高野 留里 (美術) 講師
山崎 桂 (機械) 講師

今年は多くの方が異動になりました。長年、本校にご勤務いただいた方々に感謝し、益々のご活躍、ご多幸をお祈りします。

新しいメンバーを加え、本校の発展に努力しておりますので、皆様方の変わらぬご理解、ご協力、をお願い申し上げます。



進路指導部長

林 幸男

進路状況 について

卒業生の皆様、益々ご健勝にてご活躍のこと、お喜び申し上げます。

前進路指導部長長川西先生が、今春、高知工業高校に転勤され、その後任を私が引き継ぐこととなりました。何分力不足で、皆様のお力添えなくしては役を全うできませんので、よろしくお願い致します。

さて、昨年度の求人状況は、下表にも示してある通り、過去最低でした。非常に厳しい状況下でしたが、ほぼ希望どおりの職に就くことができました。

次に本年度の進路状況ですが、七月当初、求人の出足が好調で、特に県外の大企業の採用がたくさんありました。八月になると、県内企業の求人数が鈍り昨年よりもぐっと減少しています。景気回復の状況は、県内ではあまりよくないのが現状ではないでしょうか。しかし、このような中でも、本校の生徒は内定をたくさん頂いております。これもひとえに、卒業生の皆様によって築き上げていただいた本校の伝統によるものが絶大だと感謝致しております。

年々生徒数が減少し、平成十二年には、県下の高校生は七千人ぐらいいるといわれています。最近の生徒の専門学校を含めた進学率が高くなっておりますので、就職希望者の絶対数が減少するのではないかと予想しています。そのような中で、本校の伝統を守っていくためには、ぜひとも卒業生の皆様の

温かいご声援ご援助が不可欠となります。今後ともよろしくお願い致します。

○過去4年間の進路状況

(9年は9月末現在)

年度	生徒数	進学	就職		その他
			県内	県外	
9	131	23	44	62	2
8	143	24	56	60	3
7	188	24	75	75	14
6	206	32	77	91	6
5	196	12	82	102	0

○地区別就職先人数

地域	年度				
	9	8	7	6	5
大阪	17	21	12	14	21
関西			15	13	20
東海	15	14	8	14	17
関東	6	7	12	12	14
中・四国	20	18	28	38	30
県内	20	56	75	77	82

(9年度は10月1日現在の内定数)

○過去4年間の求人状況 (会社数)

(9年は10月1日現在数)

年度	地域	大阪	関西	東海	関東	中・四国	県外合計	県内	計
8	83	73	56	94	66	372	152	524	
7	91	89	58	114	69	421	122	543	
6	120	98	72	164	86	540	128	668	
5	173	173	141	273	126	886	136	1022	

大阪支部だより

昭和40年電通科卒

浜崎 満良

「オイ、浜ノ須工の同窓会をすることになったき、おんしも行けよ」、昭和四十七年頃であつたと思う（記憶力の悪さでは人後に落ちないと自負している）が定かでない。当時会社の上司でもあつた吉本静夫先輩の一言が同窓会と出合う切つ掛けてである。東区（現中央区）にある大阪国際ホテルでの須工同窓会近畿支部発足式の受付をさせられる破目になった。米席者のほとんどが面識のない先輩ばかりで、中には私が生まれる前に卒業された大先輩も見えられ、資料の手渡し、会費の請求をするにも無礼の無いようにと気疲れがした。同窓会との出会いはその程度の記憶しか残っていない。

その後、近森久重先輩の天辻鋼球、奥代重蒸先輩の桂金属、松村隆司先輩の大同エンジニアリング等で総会の準備会が行なわれ、その度に吉本先輩のお供をすることになり、多くの良き先輩方に巡り合えた。何かとお引立を戴いているうちに何時の頃からか大阪支部役員のお席を汚すようになってしまふ。

さて、大阪支部では二年毎の通常総会が昨年十一月十六日に全日空シエラトンホテルに会場を設けて開催され、盛会の中に滞りなく全ての行事を終えることが出来た。そうです。

そうですと言うのは、私、総会準備の段階で、持病の腰痛が悪化して入院のため出席出来ず、山田支部長をはじめ役員の方々に大変ご迷惑をお掛けして

しまいました。

そこで今回は総会の報告に替えて、うつつうしい話で恐縮ですが私の園圃記を載せさせて戴きます。

私が腰痛に出合つたのは須工在学中のことで、以来三十年余りの付き合いになる。

病名は椎間板ヘルニア。慢性的な腰の重たい痛み、足の痺れ、前屈みになると痛むので洗顔も膝を曲げて手早くすませ、歩く姿も自然に斜めになる。そんな症状を整骨院で鍼、マッサージをしたり、状態が悪くなると整形外科で硬膜外注射（背骨の間から局所麻酔剤とステロイドを混ぜたものを硬膜外に注射して痛みを和らげる方法で、週に一回ずつ2〜3回注射して効果を診る）をして、騙しながら付き合い合ってきた。

ところが昨年の8月末、足の付け根に激痛が起る。息を止めてうずくまる。治まるのを待って息を整える。そんな状態が断続的に続き、寝ていても腰骨神経が痛む、同じ姿勢で10分と寝てられない、勿論会社にも行けない。

入院を決定するも歩けない。生れて初めて救急車のお世話になる。

病院での治療は硬膜外注射と痛み止めの薬、期待も空しく効き目が無い、ストレスが溜り微熱、血圧が上がる。

アツと言う間に一ト月が過ち、主治医に呼ばれる。「手術しますか」、「先生、手術すればどの位で仕事出来ますか」、「三月もあればいいでしょう」と簡単に言う。頭の中がまっ白になり「先生、ちょっと考えさせて下さい」。考えてもどうすることも出来ないのは分かつていても気持ちの整理がいる、仕

事のことは忘れるしかない。

10月9日、全身麻酔で手術。「松村さん！（松村先輩には仕事の関係もあって公私共に筆舌に尽し難い程のお世話になっている）おまんそればーしか飛ばんかよ」、ゴルフをしている夢を見ていた。

それから二週間の生活範囲は寝たまま手の届く範囲だけ、丸太ン棒になる。寝た切り老人になった時が思い浮かぶ。二十数年連れ添って空気の様な存在だった妻が頼母しく思え待ち侘びる。着替え、下の世話、感謝の言葉など掛けたことが無かつたが、「ありがとう」口を銜いて出る。

10月22日、歩行許可が出る。自分の足で歩けることがこれ程幸せなこととは思ひもよらなかつた。

11月4日、退院。自宅でのリハビリが始まる。五百米、一キロ・十キロ、毎日ただひたすら歩き続け、12月17日の初出勤となる。

人間歳と共に体力は衰え、色々な病気が近寄ってくる。自分の健康は自分自身で守らねば誰も守ってくれないと悟り、万歩計を買ひ「毎日歩けど、週に2回はプールに行くぞ」と決意はしたが、回復するにつれて、「車で行けや」、「もう今日は一パイ飲んで寝たらどうや」と耳元で悪魔が囁きだす。妻が再び空気になる。

— 喉元過ぎれば熱さを忘れる —

人の情の有難さだけは一生忘れないよう肝に命じているこの頃です。

末筆になりますが、お世話になりました先輩方に御無沙汰のお詫びを致しますと共に、会員の皆様のご健康と増々のご活躍を祈念して、拙文を終わります。

みんなで楽しむ支部活動を!! 本年度より年間六行事を開催

昭和29年造船科卒

新支部長 田村 武夫

京滋支部の設立準備から奔走され初代支部長として活躍されました廣瀬理支部長(21年機械卒)が昨春秋の総会にて引退され、後任として支部長を拝命しました。若輩ですが今後共宜しく願います。

近畿支部当時から念願は同窓会の皆さんが『お互いに顔を合わせる機会を、より多く作る』ことでした。顔が合うと土佐弁が飛び出し、先輩後輩交えての親睦が生まれ後輩からの相談に応じたり又仕事面での助け合いや、趣味娯楽の輪を広げる事も出来ます。

支部活動では出席者が中高年層に偏っている傾向がある為、昨年の卒業生や二十才代の若年層を役員に起用するなど、先ず役員若返りをはかると共に若年層の意見を取り入れて、支部活動の活性化に努めております。

これらを目的として先ず五月に新入支部会員の歓迎行事として、貸切りバスで京都の名所巡りを行いました。初めての行事の為、大阪支部の山田支部長を始め兵庫、奈良、又高知、千葉の遠くからも協賛参加をいただき盛大に挙行する事が出来ました。

二番目の行事は八月末に『ボウリングと豪華客船での琵琶湖遊覧』を行ない、午前中は家族共々ボウリングで汗を流し、昼前からは遊覧船『ミシガン』



遊覧船『ミシガン』にて琵琶湖めぐり

にて湖上めぐりと船内にてデイナーパーティーを開き、陽気なアメリカレディーと共に楽しいひとときを過ごしました。

今回は家族を含め二十九名が参加して下さい、会員の年代層では十才代から三十才代の若年層が半数近くを占め、若年役員の意見の汲み上げ効果が始まったものと、今後も若年層参加に期待しています。

この原稿は九月五日締切りの為、ここ迄しか報告出来ませんが、九月末には初級、中級者向けのコースでのゴルフ大会、五組二十名の参加予定を始め、続いて釣り大会、ソフトボール大会を年内に予定しております。残る六番目の行事は明けて二月末頃に初級者から上級者向けの滋賀県マキノスキー場にて

スキー大会を予定しております。会費は二千円、参加希望者は他支部の方も含めて後記事務局迄ハガキにて連絡下さい。一月下旬に詳細案内状を送ります。来年度も趣きを変えて開催

行事の運営体系は体育部(部長古谷光男29年造船卒)と娯楽厚生部(部長上田智明29年機械卒)から新年度、即ち四月から翌年三月迄一ケ年間に於ける行事を各々三件立案します。それを受けて三役にて構成する事務局との合同会議にて、催行日又は予定月、会費、予算を協議し一月の役員総会にて最終決定すると共に、行事毎の担当幹事を決めます。

二月には京滋支部会員一二十六名に計六件の年間行事予定表を返信ハガキ同封にて郵送します。会員は参加希望行事欄に○印を入れてハガキを返送します。行事開催日の一ケ月前になれば詳細案内状を送り、参加人員の確認を行うと共に、担当幹事は行事に向って最終準備に掛り当日を迎えます。

京滋支部の方で住所変更等の理由にて、本年二月に当案内状が届かなかった方、又友人にそのような方が居られましたら御面倒ですが後記事務局迄、住所をハガキにてお知らせ下さい。

尚京滋支部以外の方も参加を歓迎しますので、行事予定表を御希望の方はハガキにて事務局迄連絡下さい。印刷の都合上、なるべく一月末迄にお願いします。では今後共京滋支部を宜しく願います。

連絡先

滋賀県近江八幡市中小森町二七六一九
田村 武夫 内
〒五三三 〇七四八―三三三―〇六〇七
高知県立須崎工業高等学校同窓会京滋支部

中京支部だより

出稼ぎサラリーマンの郷愁

昭和33年機械科卒 沖本 毅

同窓生の皆さんにはお元気で各方面で活躍の事と存じます。また昭和33年機械科A組卒業の皆さんお元気ですか?、卒業以来御無沙汰しております。就職難の時代に卒業しましたので、色々転職をされた方も多いのでは?私も職業を転々とした後、愛知県に落着き、幸いにも、健康に恵まれ出稼ぎサラリーマンとして頑張っています。

結婚はしましたが、子供に恵まれず故郷の親も既に他界しましたが高知県へは毎年一、二回帰省しています。帰省の時期が学校休み時期と我が郷里が宿毛市の為母校は眺めるだけで立寄ったことが無く心苦しく思っています。

今年の夏も多忙なスケジュールを消化してきました。三河湾では味わう事が難かしい釣りを宿毛湾で楽しみました。定年(?)が近づくにつれ、益々高知の良さを再認識しております。引退後は故郷に永住すべく着々と準備を進めており四万十川コントリへの入会や四級船舶免許取得や趣味を活かす山林の購入と植林を行っています。ここ数年毎年冬は技打ち等に励んでおりストレス解消には最高と思いつながら又、木の成長は子育てと共通するのではないかと考えやっています。

引退後の仕事は高知西南工業団地(宿毛市平田町)にでも再就職して・・・と考えています。そんな状況で最近「出稼ぎサラリーマン」と周囲の人達に

公言しているだけです。しかし仕事は、頑張っていますのでご安心ください。今回、同窓会事務局より投稿依頼がありました。中京地区に働くOBの一人として支部活動活性化に尽力していません。お詫びの意味をこめて一筆いたします。

中京支部活動も昨年ご逝去されました今は亡き岡林支部長がお元気だった頃にご尽力され支部活動が始まりましたが、会報「にしきうら」第二十一号で春田先輩より中京支部だよりに記載されました如く岡林支部長さんと春田先輩のご苦労も考えず私共後輩の協力不足で最近是不活発支部になり、遅滞き乍ら今になり反省しています。

昨年末、事務局の井上先生が来名された時にお逢いして、同窓会発展にご多忙の中尽力されている姿に接し、私も中京支部活動活性化の為に頑張ろう?と考え中京地区の職域リーダーと私の独断と偏見で有志にアンケートを出す所までは頑張りましたが、見事に失敗し回答率が五十%以下で、尚且つ回答者不明も数名でサンザンでした。事前に主な方々に電話等で根回しすべきだったと反省していますが冒頭記載の数年後には出稼ぎ人生も終わろうとしている私です。中京支部活性化のリーダーを三菱電機の沖良二さんに御願したところであり活動が再開されたら積極的に支援する覚悟です。

考えてみるに、同窓会活動の如きことはある程度中高年令(?)にならないと、独身者や若い人達は新天地での友達づくりや仕事、家庭で忙しく活動に積極的な参加は困難ではないでしょうか?・・・そんな感じがします。

個人的な事を少し報告いたします。

三十三年卒業後、神戸の会社に就職しましたが、自分の画いた夢との差が大きく一年勤務後、宿毛に帰り半年農家相手の鉄工所で働き乍ら新しい仕事を探していましたが、田舎に居てはいい仕事が無く、航空自衛隊に入隊、ジェット整備士として働き、神武景気と言われた三十六年に、今年の二月一日に工場火災で多くの皆さんにご心配をお掛け致しましたアイシン精機刈谷工場に入社し、一昨年社命でアイシン高丘(株)に変わるまで三十四年間勤務いたしました。

当時のアイシン精機は従業員約千五百人、工場も刈谷工場だけでしたが、トヨタ自動車の高成長のお陰で成長し、今ではアイシン精機は従業員一万一千人程います。現在はアイシングループの会社が国内外に数多くあり大手の自動車部品メーカーになりました。

アイシン高丘(株)に転勤後もアルミ鋳物を担当していますが、アイシン高丘は従業員三千人で鋳鉄鋳物メーカーとしては、生産量では世界でもトップクラスのメーカーです。同窓生の皆さん、これを機会にアルミ、鉄鋳物のご用命は是非アイシン高丘(株)へお願い致します。

追伸「中京支部活動を少人数で再開しようではありませんか、ご賛同の方は沖良二さんか沖本へ一報下さい」

勤務先 愛知県知多郡東浦町藤江

アイシン高丘株式会社東浦工場

TEL 〇五六二一八二一〇〇三〇

自宅 愛知県豊田市中根町西山八一五三

TEL 〇五六五一一八〇九八

昭和30年電通科卒

松本 四郎

野瀬支部長よりの突然の執筆依頼に「ハイ」と返事をしたものの、小生昔から文章を書くことが大の苦手で困惑しました。本来ならば、関東支部だよりを書くところですが、今回は同窓会等について書きました。

小生、昨年九月に永年勤めた会社を退職しました。還暦を迎え「この際S30年卒の還暦同窓会をやろうじゃないか」という話が持上がり、地元在住の吉村正策(M)、安並洸吉(S)、秋山正元(T)の三者の音頭で、卒業後初めての同窓会を四十一年ぶりに、桂浜にて一泊二日で開催しました。(二月四日)

参加者は恩師竹村先生を含め約三十名、夫婦同伴も大歓迎ということで、何組かの同伴参加がありました。小生は卒業後大阪・名古屋・東京等で勤務していた関係で、大部分の同級生と会っていませんでしたので「みんなどんなオンチャンになっているのかな?」と胸をワクワクさせ乍ら、会場へむかいました。案の定誰が誰かがわからず、つい「オマン誰ぜよ」と聞く有様。お酒も入り、宴会もたけなわになり、すっかり昔の高校時代にタイムスリップし、昔話に花を咲かせ楽しいひと時を過ごすことができました。そして「亦やりたいネ」と別れを惜しみ乍ら、校歌を合唱し、宴会を終わりましたが、それでも飽き足らず宿舎では、朝迄酒を汲み交し乍ら語り明かしました。翌日は数名でゴルフに行きましたが、あ

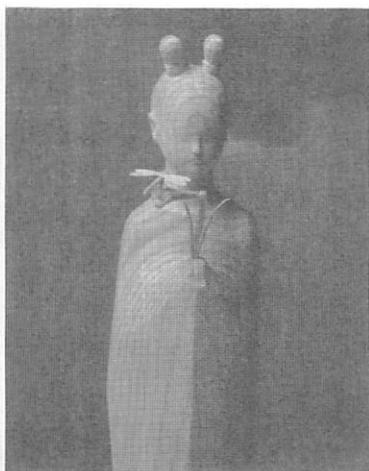
いにくの雨で身体も冷えきっていた筈なのに、久しぶりに旧交を温めたせいか、寒さもあまり感じませんでした。

年を重ねる度に、昔の友に会いたくないなと思う今日此頃です。

追記 関東支部だより

造形作家の友永詔三氏(38年S卒)が写真家の秋山庄太郎氏と東京銀座の画廊で、二人展を開催し、連日大勢の人が彼の芸術にふれておりました。私も美しい作品(聖少女像)に心うたれました。

後日(平成9年11月)出身地窪川町で、同じく秋山先生と二人展を予定しているそうですので、ぜひ見に行つてほしいと思つております。



「清流ゆり」四万十幻想より H51cm 友永詔三

ご挨拶と思いつくまゝに

昭和27年機械科卒

井上 健弘

同窓会の皆様には、益々ご壮健にいろいろな分野にてご活躍のことと拝察、お喜び申し上げます。考えて見れば後二年で二十世紀も終わりを告げる時点となりました。光陰矢の如し、全く月日のたつのは早いものです。昭和二十年代の須工学生時代が、ついこの間のように懐かしく想い起これます。私こと卒業以来四十五年の中で四十三年勤めましたダイハツなる自動車会社をリタイアしまして現在は、年金と言う名の給与を頂戴し、その分地域や自治体のボランティアに明け暮れる毎日を送つて居ります。

さもあつてか、本年五月の高知支部総会に於きまして役員選挙委員の皆さまから支部長をお前がやれとお、せつかり不肖の身でありながら、断わり切れずその役をお受けすることとなりました。現役から二年も経過しますと書くことすら苦手な昨今です。皆さまのご協力をよろしく願ひします。さて、愚見を少し述べさせて下さい。

現世相では家庭にあつては核家族化が目立ち、近隣においては、隣りは何をする人ぞと疎遠になりがち、若者と年輩者の間はジェネレーションギャップで隔てられ数十年前迄あつた対話も今は乏しく、それぞれお互いを結ぶ絆が細くひ弱に見えてなりません。また、少しは変化してはいますが若者のモノの見方考え方の斬新さがとすれば過保護的に優先

され、それに追隨してゆくことが現代の処世であるかの偏見を覚える私であります。

自分達の生きて来た六十有余年を振り返ると、先代達から伝承された諸々の知識。又戦前、戦時中、戦後と幅広く得た経験、熟年者には葬るには惜しいそれなりの集成された知性が備わっていると思えます。只、熟年者も日常の職務に追われ若者の相談に耳を傾け、独走に目を配りこれを受け止めて方向を論じてやるだけの精神的余裕を持ち得なかつた責任は時勢とは言え回避できないと考えます。

これから世界に伍しての日本を図るとき、若者の技能知識、意気盛んなパワーに熟年者の集成された知性を附加して、より大きな人材、逸材を世に広めたいと願うものです。

話をもとに戻しまして、同窓会とは、老若男女を問わず、須工（高校）なる学舎、つまり母校と言う同じ胎内から生み出された同輩が一堂に会して集い、先述した隔たりをなくし先輩は後輩に親身になって対話を交わしサジュエクションやアドバイスをまじえながら、大いに激励してやる。亦、後輩は先輩に対して、先輩が一生の命を懸けて体験したノウハウを、タダで披露してもらい教わる訳だからそれなりの敬意を忘れず礼節を知ること。同輩は積る話に花を咲かせ、健康を確かめ合い、次回の再会を約束する。そこには何等の物や金の利害関係が存在せず、和氣藹藹の雰囲気がかもし出される。そんな会でありたいと願っております。

フィリピンへ寄贈の救急艇について 高知支部

六月の本部総会で高知支部としての意見を申し述べ皆さんと同じく、全国同窓会の蓄材の中から大半の額を出費してもらうことに賛成しました。しかし、まだ本部別紙説明の通り不足しております。

普段私達は母校発展に寄与すると会則に掲げているもの、格別何もできていないのが現実です。

こんなときこそ、全国同窓会が心一つにして、この事業を成功させ、須崎工業高校の造船科でこれだけの技術でこのような外国向けの船を建造したと西日本一帯の新聞に掲載せようではありませんか。そして、須工造船科に東は関西から、西は九州迄憧憬を胸にした新入生を迎えたいものです。

当然高知支部としましても出来る限りの協力をせねばと考え4冊の奉加帳を預かり廻しております。

全国の同窓会の皆さん、高知支部の同窓会の皆さん。母校発展に直接寄与するこの事業にご賛同下さるようよろしくお願いいたします。

尚高知支部でも奉加帳の廻らない方は直接本部へ振込みして下さい。

須工同窓会 高知支部総会へのご案内

《恒例によりまして、いつもの処
で、いつものように開催します》

- 1 日時 平成10年 5月25日(月)
18:00より
(母校開校記念日)
- 2 場所 高知会館 ☎(23) 7123
(県庁前電車道南側)
- 3 会費 一般 ¥ 5,000
特別 ¥ 3,000
平成8.9.10年の卒業生
プラス写真代 ¥1,000
(受付で申し出て下さい)

老いも、若きも、女性・男性にかかわらず多勢の皆さんのご参加をお待ちしております。

支部長 井上健弘 ☎(72)5075



第12回高知県立須崎工業高等学校同窓会高知支部総会 H9.5.25

須崎支部だより

須崎支部活動報告

昭和43年機械科卒

坂本 操

同窓会員の皆様には、お元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。

私達須崎支部も、山地支部長の元で支部活動を行っていますが、支部規定・総則なども少しずつ揃って来ました。

昨年の八月に本部総会が行われた時は、須崎支部も地元と言う事で、一七〇人目標に人集めに頑張った事でした。

今年の須崎支部の事業として、九月二十一日地元の高南カントリークラブにおいて、第一回須崎支部かわらそ杯ゴルフコンペを実施しました。その内容について、紹介させていただきます。

話の始めは、ある役員さんより、「今は若い方もゴルフをやりだしたけ、支部会員の中でもぞんがが集まりやせんかよ」と言う事がきっかけです。場所につきましても、母校出身の先輩が、ゴルフ場に勤めているとの事で相談すると、心良く引き受けられて来て、さっそく役員会を開いて承認をもらい、ゴルフコンペとなったわけです。メンバーにつきましては第一回目でもありますので、地域、職域の役員さんをメインとしまして、十組集めてもらえようと思いました。

コンペの朝がやってきました。

スタート前、グリーン横に全員が集合し、顔合せを行いました。メンバーの年齢につきましては、昭和23年卒の先輩から、平成5年までの幅広い年代です。さっそく記念撮影を済ませてプレーに入りました。プレーの内容につきましては、ゴルフが仕事ではないかと思われる人もいましたが、楽しくラウンドできたと思います。

プレー終了後の表彰式の中で、「今晚反省会の段取りはできちゆうかよ」との話がでてまして、参加者を募ったところ、ほとんど全員が出席してくれることになり、夕方の懇親会となったわけです。

まず山地支部長の挨拶、続いて今日の優勝者の谷益好さんよりかわらそ杯初優勝の感想をいただきました。祝宴に入りました。

最後になりましたが、今回の事業は始めての事でもあり、とにかくやってみようと言う事で進めましたが、支部長の考え・方針としては、支部事業はできるだけ多くの会員の皆様に還元できるような活動を、と思っているようですので、なお一層の御協力をお願いしまして、須崎支部の活動報告とさせていただきます。

順位表(ダブルベリア方式)

順位	プレイヤー	グロス	NET
一	谷 益好	八三	壹四
二	久保浦 尊人	八一	壹八
三	古谷 敬輔	八七	壹〇
四	西森 力	九九	六、二
五	松田 勇	九九	七、四



於 高南カントリークラブ参加者全員で H9.9.21



第5回ソフトボール男子ジュニア 世界選手権大会に参加して

平成9年造船科卒

村上 大和

平成九年七月二十日～二十七日、カナダ・セント
ジョンズにて、第五回ソフトボール男子ジュニア世
界選手権大会（十一ヶ国参加二ヶ国棄権）が行われ
日本代表選手として参加致しました。選出されるま
でに、書類選考、第一次選考会（平成八年十一月、
静岡県沼津市）、第二次選考会（平成九年三月、高
知県春野町）があり、全国各地の中から十七名の一
人、投手として選出されました。

第一次強化合宿（平成九年五月二日～五日、愛知
県豊田市）、第二次強化合宿（平成九年六月二十七
日～三十日、群馬県安中市）を行い、七月十四日に
カナダ向けに出発しました。

バンクーバで一泊見学、次にトロントへ更にハリ
ファクスからセントジョンズに夜中の一時頃着きま
したが、日本では夏なのに真冬みたいに寒かったた
す。十六日から大会向けの練習が始まりました。
時差ボケで体が思うように動かずでしたが、時がた
つにつれて、体調も良くなり皆元気良く練習ができ
るようになりました。十七日～十九日の間は、練習
地元チームとの練習試合等を行い本番に向けて調整
していきました。

十九日の夜はレセプションがあり、他国の選手と
一緒に盛り上がり、楽しい一夜を過ごすことができ

ました。二十日より大会が始まり、シングルラウン
ドロビン方式（一回戦総当たり制）で行われ、一回戦
は南アフリカを7-2で勝利をあげ幸先の良いスタ
ートができました。その後もヴェネズエラを13-7、
チェコを11-1、アンギラを23-0で勝ち4連勝。
しかし次の地元カナダ戦では、6回表まで1-0で
勝っていましたがその裏に一挙5点を取られ1-5
で逆転負けとなりました。次のメキシコには5-4
と逆転勝ちし波に乗れるかと思いましたが、オース
トラリア（優勝）に2-3と惜敗、続いて敗けては
ならない相手アルゼンチンに2-3と競り負け、決
勝トーナメント進出（上位4チーム）が苦しくなり
ました。更に強豪のニュージーランドに4-11で敗
戦となりました。最終戦のアメリカには4-3で勝
ったものの、アルゼンチンと同率の6勝4敗、規定
によりアルゼンチンに敗けているため決勝トーナメ
ントには進めずに終わりました。結局日本は5位で
した。

私は、チェコ、オーストラリア、ニュージーラン
ド戦で投げました。チェコ戦では5安打1失点で押
えることができました。オーストラリアには一回表
に1点を取られたものの5回に味方打線が2点取っ
てくれました。六回まで4安打1失点とまずまずの
投球内容でしたが、七回表に力尽き一死・二塁で
降板しました。後の投手が押えることができず、逆
転負けしました。自分がもう少ししっかりしていれ
ばと悔まれた試合でした。ニュージーランドではパ
ワーの差をまざまざと見せつけられた試合でした。

短い期間ではあったが、海外生活並びに世界のレ
ベルを身を持って経験、実感できたことを、私の人

生航路の上で大いに役立たいと考えています。
又ソフトボールの選手として、実業団チームに所
属していますが、常に上位を、更に個人としても、
次の世界選手権、オリンピック出場を目標に頑張る
決意をしています。

最後になりましたが、私が日本代表になれたのも
私をここまで育てていただいた母校の先生方、ソフ
トボール部の皆様（特に津野先生、高橋先生、同学
年の和田君、前田君、小松君、濱口君）に感謝の意
を表し、報告を終わります。

ご声援ありがとうございました。



民俗学をやりたいたくて

昭和42年電通卒

常光 徹

平成三年に、それまで十八年間勤めた東京都の公立中学校の教員を辞めました。民俗学の調査と研究に打ち込みたいという気持ちが強くなったためですが、しかし、いざ退職すると経済的な問題もあっていささか迷いました。

私が民俗学という学問に興味をもったのは須崎工業に通っていたときで、現在高知大学で講師をされている坂本正夫先生の影響によるものです。先生は社会学の授業中によく土佐の民話や年中行事について話してくれました。当時先生は県下を精力的に歩いて民俗調査をされていた時期で、その成果を教室で披露してくれていたわけです。中村の泰作話や各地の風習など、庶民の生き生きとした生活譚は、教科書には書かれていない面白さがあって印象的でした。

大学では、文化系に方向転換し、もっぱら民俗や民話の勉強にとりくみました。中学の教員になってからは夏休みや冬休みを利用して採訪にでかけ、また、ひまを見つけて、東京の小中学生のあいだで話題になっている怪談や妖怪話を収集し、資料集にまとめたりしていました。

あるとき、講談社の編集部の人から私が集めている子どもたちの怪談を本にまとめてみないかという話をもらいました。子ども向けの読み物ということで、それまで集めた資料の中から、おもしろそうな

話をいくつか選んで『学校の怪談』という本をまとめました。学術論文ではないのでわりと気楽に書いたのですが、ところが刊行後、思いもかけぬ反響があり全国の小中学生からびっくりするほど沢山のハガキをもらいました。これがきっかけで学校の怪談シリーズ（現九巻）が生まれ、東宝から映画化されることになったのです。

『学校の怪談』は、民話の視点から子どもたちの伝承の世界を紹介したことが、身近な共感をよんだのかもしれませんが。退職してから大学の講師をしながらはそばそと食っていた私にとって、経済的には大いに助かりました。まさに「瓢箪から駒がでる」とはこんなことをいうのでしょうか。ただ、ブームは一時的なものですから、民俗学の調査と研究という本来の目的を見失なわないように頑張っていこうと思っています。

事務局より

映画『学校の怪談』の原作者が、同窓生であるとの連絡を頂きました。

丁度、高知新聞に連載しておりました、「うわさと俗信」の筆者だとの事で、常光氏に確認の連絡を取りました所、思いもかけておりませんでした。母校図書館に、作品を寄贈して下さいました。

学校の怪談（口承文芸の展開と諸相）

ミネルヴァ書房

日本の世間話④

土佐の世間話（今朝道爺異聞） 青弓社

民俗学の手帖から
うわさと俗信 高知新聞社
日本の現代伝説
ピアスの白い糸 白水社
学校の怪談 講談社

大切に使用して戴きます。

常光氏は、国學院大卒業され民俗口承文芸の研究をされ、現在は国學院大、桐朋学園大短期大学部非常勤講師をされております。



第2回体育祭 H9.10.9 優勝 電気科
棒倒し

相撲部OB会を開催して

昭和41年度化工科卒

中川 守

高校の相撲大会に須崎工の名前が見えなくなつて三年。本年度の全国高校総合体育大会の相撲の部で私立明德義塾高等学校が全国制覇、心より拍手を送り相撲王国土佐の面目躍如ができました。しかし、一抹の寂しさも感じました。その昔、我が母校須崎工の相撲部も全国高等学校相撲選手権大会で堂々の優勝をまた、現在、高知県で開催されている全国高校相撲新人選手権大会でも団体優勝その他幾多の大会でも輝かしい成績を残した伝統ある学校であります。高校相撲といえは須崎工、須崎工といえは相撲。あの伝統は、もう帰つてこないのでしょうか、本校より多くの名選手が生まれました。高山三郎氏、岡崎・甲把・中井・中川浄の全国制覇組また、中川健三氏そして、新人大会を制した浜吉・木下・林・酒井・広田組、近くではハワイ大会へ参加した岡崎明氏と挙げれば枚挙にいとまなく、今、思うに現在の相撲の舞の海、智の花、旭鷲山に劣ることのない小兵で業師がその年々で育ち、相撲愛好者に喜ばれる選手が果立つていきました。こんな思いもあつてか相撲部のOB会の開催を中井博重氏に持ちかけ現在春野中学校長の林和夫氏と共に開催する計画を立てました。母校の須崎工に向き、尾崎校長と親しくお話をする機会がもてました。そのうえに、OB会世話役の井上先生には、大変お世話になり案内状等

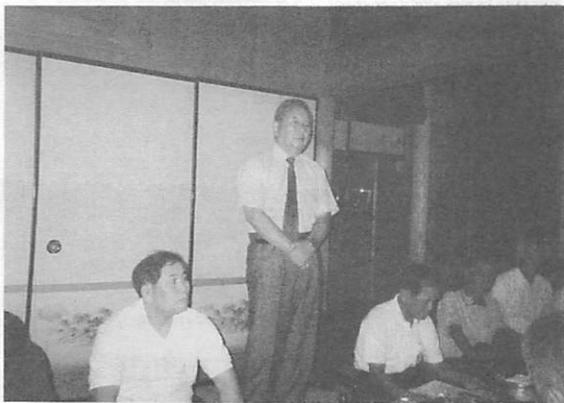
を発送することができました。書面をもって厚くお礼申し上げます。開催日をお盆の八月十四日須崎市の寿し安と決め参加数が気になりながら八十余名に案内状を送付しました。参加者数は三十名(恩師含め)の参加となりました。恩師の参加者は、田原敏雄先生・合田正寛先生・沢田俊男先生・徳弘伝男先生・矢野象一先生が参加してくださりました。また、現、須崎工業高等学校長の尾崎翹彦先生そして、OB会世話役の井上耿介先生も参加してくださり盛会のうちに開催することができました。初代主将の岡林幸保氏の挨拶そして田原先生の今も衰えることのない相撲への情熱の挨拶後、順次OB・先生方の自己紹介と続きました。自己紹介では、高校時代のお礼や厳しかった練習のこと試合での勝利の喜びまた現在の仕事のこと等が話されました。

一人の自己紹介が長いので休憩(飲み・食いする時間)をとりながら進行了しました。乾杯の音頭を尾崎校長にお願ひし、膝を交えながらの楽しいOB会を持つことができました。

「旨い酒が飲めました。」青春時代の思い出と厳しかった先生や苦しかった練習に鬼のように思えた先輩がこれほど身近に感じ、安らぎのある場・楽しい談話ができた場、そんなOB会であつたと思ひました。楽しい時間は「あっ」という間に過ぎました。次回開催を多くの先輩に依頼され、世話役としての喜びも感じました。また、今回、出席することのできなかった方よりの返信に同窓・先輩・先生によりしくと書かれた文章にも感動いたしました。一方、住所がわからない方や手紙が行き届かない方がいることの寂しさも感じました。今回のOB会の世話をさ

せていただいていることは、母校への思いは皆さん素晴らしい気持ちをもたれ、誇りに思つておられることです。他の部もOB会やまた、同窓会を開催してはどうかと提言もしたい。須崎工業高等学校には、お世話してくださる先生もいらつしやいますので気軽に学校訪問してはいかがですか、本当に安らぎと懐かしさの持てるOB会ができると思ひます。

終わりになりましたが、今回ご案内できなかった多くの先生方に対しましてご無礼があつたことをお詫び申し上げ、相撲場に『東 須崎工業高校、〇〇君』とアナウンスされる日の来ることを待ち望み終わりといたします。



事務局だよ

開校記念日は、五月二十五日ですが、本年は日曜日で、高等学校インターハイ県予選と重なり、二十九日(木)に開校記念式典を挙行しました。

講師には岡崎賀夫氏(昭和38年機械科卒)に「国際社会におけるマナー」をテーマにお願いしました。

岡崎氏は、JRR四国ワープロプラザ須崎旅行センター所長として活躍しております。

長年の添乗の経験を生かし、旅の楽しさや本題の海外旅行における注意をわかりやすく話して下さいました。改めて、講演のお礼を申し上げます。

その後、恒例の開校記念科別綱引大会を開き、本年は、造船科が優勝しました。

フリーピン・ネグロス島に救急船を贈ろうと、日系フリーピン人支援の会(土居潤一郎会長)の活動に協力して須崎市の須崎工業高校造船科の生徒が船建造に取り掛かり七日、同校で土居会長や同科生徒らが出席して起工式が行われた。

起工式の報道

(平成9年2月7日 高知新聞より)

土居会長は終戦を迎えたネグロス島で窮乏に苦しむ日系人の存在を知り長年、医療や奨学金の援助を続けてきた。昨年一月、地域の文化や福祉に貢献した個人団体に贈られる「第三回

高新大賞」を受賞。賞金を活用して学習棟も建設した。今回の計画は山林の伐採が進んで、木造の大型船が造れず、島々からの急患の搬送にも困っている現地の現状から土居会長が発案。教員時代の友人が勤め、造船科のある同校に建造協力を依頼した。

同科では授業の実習やクラブ活動で船の建造を行っており、「国際理解の絶好の機会、日本の高校生の技術の高さを見たい」と全面協力。資材は同校OBらの寄付で集めた。救急船は全長一十一、幅二・

五、五のFRP船。二百馬力のエンジンを載せ、二十リで航海できる。定員は十五人。土居会長は「急患の搬送や密漁船の取り締まりなど幅広く活用できる。この船をモデルに日系人の職業訓練に生かして造船技術向上に役立てたい」と期待している。

起工式は同校実習棟に土居会長や造船科の生徒ら約八十人が出席。船体の一部が出来上がった救急船の前で、神事で無事建造を祈った。船はことし九月ごろには完成、現地に運ばれ、西ネグロス州に渡される。

ボランティアで救急艇を建造!

母校造船科で、新聞等の報道でご承知の方も多いと思いますが日系フリーピン人支援艇を建造中です。現在、艤装に入っており、十月二十九日には贈呈式祝賀会が開かれます。

しかしながら、ボランティアのため資金集めに苦勞しています。

お願い
現在、同窓会も協力して、募金活動中です。募金にご協力できます方は、同封の郵便振込みにて、十二月二十日までに同窓会へお送り願えれば幸いです。



ご寄付御礼

(平成八年十月〜平成九年十月九日)

金二万円	昭和26年	機械科卒	横井	修三
金二万円	昭和30年	機械科卒	三宮	重博
金五千元	昭和39年	機械科卒	山崎	立生
金五千元	平成5年	電気科卒	岡村	周一

ご厚情、誠にありがとうございます。

同窓会の運用の資金として活用させていただきます。

平成8年度決算報告書

取入の部	費目	金額(円)	備考
取入の部	前年度繰越金	46,115	
	新入生入金	250,000	125名*2,000円
	雑収	272,887	
	特別会計利息	199,847	
	特別会計補助	2,210,000	
計		2,978,849	
支出の部	費目	金額(円)	備考
	会議費	53,917	
	事業費	1,259,154	開校記念品代会報印刷代 39,397 会報送料 632,616 振替用紙封筒代 496,125 総会準備 48,358 その他 0
	通信費	49,937	
	事務費	31,816	
庶務費	130,641		
支部配分金	726,200		
雑費	5,792		
旅費	244,220		
子備費	0		
計		2,501,677	
収入		2,978,849	
支出		2,501,677	
残額		477,172円	

<特別会計>

終身会費	費目	金額	備考
終身会費	前年度未積立額	34,710,000	
	本年度納入額	2,750,000	新卒(1,430,000) 旧卒(1,320,000)
	一般会計補助	▲2,210,000	
計		35,250,000	

監査報告

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確実に管理適正に執行されている。

平成9年4月23日

監査 坂本 臣三 松浦 博

平成9年度予算

支部配分金 会員1名 200円

(収入)

費目	金額	備考
前年度繰越金	477,172	
新入生入金	232,000	116名*2,000円
特別会計利息	137,253	
雑収	20,000	
特別会計より補助	2,220,000	
計	3,086,425	

(支出)

会議	費目	金額	備考
事業	開校記念品代会報・振替用紙等印刷代	50,000	37,406
	会報送料	1,830,406	640,000 8,800部 510,000 7,500部
	封筒代		60,000 6,000枚
	卒業証書九筒		23,000
	ボランティア船建造寄附		500,000
通信	その他		60,000
	費	45,000	
事務	費	30,000	
	費	120,000	
支部配分	金	790,800	関東379 75,800 中京 216 43,200 大阪519 103,800 京滋 91 18,200 高知884 176,800 須崎1651 330,200 彦川110 22,000 幡多 104 20,800
	費	10,219	
雑旅	費	200,000	
	費	10,000	
予合	備計	3,086,425	

平成9年度特別会計予算

項	金額	備考
前年度未積立額	35,250,000	
9年度納入予定額	2,580,000	
計	37,830,000	
一般会計へ補助	2,220,000	
計	2,220,000	
平成10年度へ累積積立額	35,610,000	

終身会費納入済者名

(平成9年10月1日～平成10年9月30日)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

山崎加奈子	松島 紀彦	岡林 知寛	電 気 科	松浦 茂仁	電 気 通 信 科	昭和33年	昭 和 21 年
電 気 科	松本 逸平	尾崎 剛志	角田 功	電 気 科	市原 維裕	機 械 科	機 械 科
青木 裕作	宮本 豊	久保田英同	笹岡 政夫	笹岡 政夫	高橋 征喜	近添 光男	田中 俊輔
井上 李幸	山崎 泰典	熊岡 優典	昭和50年	昭和45年	谷脇 省三	橋田 登	前田 隆義
今橋 和也	和田 大典	笹岡 雅之	機 械 科	機 械 科	吉岡 隆司	古谷 和春	昭和23年
欽原 和宏	造 船 科	嶋崎 隆幸	谷 政史	吉川 房男	化学工業科	山本 忠義	機 械 科
岡村 武幸	市川 治	高尾 明宏	土崎 豊	芳崎 博正	竹村 和夫	電 気 通 信 科	田中 光男
川上 悦一	岡部 敏亨	高橋 孝仁	造 船 科	井上 二郎	昭和39年	谷本 淳一	昭和24年
川村 一次	小笠原 鋭	谷岡 宏哲	浜田 昭	片岡 輝也	機 械 科	昭和34年	機 械 科
古部 操	小澤 貴志	津野 聡	電 気 科	森光 正志	谷脇 忠造	機 械 科	瑞穂 深田
田味 裕之	木下 卓	豊田 真行	廣瀬 敏安	久保 広行	山崎 立生	岡崎 玲喜	武内 徳至
中川 靖浩	木山 卓	嶋島 敏一	藤原 洋一	昭和51年	化学工業科	藤原 辰	昭和26年
中野 宏	笹岡 一夫	西森 誠	機 械 科	機 械 科	大西千代美	電 気 通 信 科	機 械 科
西森 貴彦	下元 仁	西森 誠	甲把富士雄	川上 清和	又川 征美	江洲 増男	横井 修三
西森 若彦	白石 歩	野並 功	化学工業科	山中 一義	昭和40年	川上 忠男	昭和27年
西山 政宏	竹田 陽一	濱口 卓也	浜田 明秀	電 気 科	機 械 科	藤戸 正万	機 械 科
野山 和孝	竹村 中越	坂東 福留	昭和52年	森下 精二	五藤 一志	昭和35年	山名酒治郎
藤川 喬史	日林 力	藤原 前田	機 械 科	昭和47年	松本 晃暎	機 械 科	造 船 科
町田 浩二	前田 阿士男	松浦 弘樹	市川 幸正	電 気 科	西山 幸良	西森 昭光	岡田 稔
松浦 達也	松本 雄	宮崎 隆裕	昭和53年	青木 敬三	明神 義広	真辺 徳夫	昭和29年
森田 昌利	村上 大和	山岡 良宏	機 械 科	下元 祐介	池田 進輔	今村 国雄	造 船 科
市川 裕也	森崎 孝文	山岡 暢也	昭和54年	昭和48年	電 気 通 信 科	森木 正隆	森岡 廣賀
今橋 新吾	山下 泰寛	山崎 亮	電 気 科	機 械 科	西山 幸良	昭和30年	造 船 科
岩佐 秀雄	山中 透	渡邊 石川	森田 弘	片田 昌弘	明神 義広	今村 国雄	森岡 廣賀
岩崎 和孝	横山 進也	岡崎 光明	昭和55年	下藤 伸明	河野 茂	森木 正隆	昭和30年
岡林 和孝	吉岡 裕晃	岡林 健作	電 気 科	河野 茂	造 船 科	昭和36年	機 械 科
沖村 憲一郎	吉本 浩和	小坂 幹夫	森田 弘	河野 茂	池田 進輔	機 械 科	沖 龍男
片岡 清司	化学工業科	小松 史規	昭和56年	河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
片岡 良徳	井上佳代子	佐伯 彰啓	機 械 科	河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
壺田 厚志	岩崎 恭一	坂口 正人	市川 幸正	河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
佐竹 敬太	岡崎 弘樹	高野 元志	昭和58年	河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
瀧石 敏之	植野 泉	高橋 昌也	電 気 科	河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
田部 伸一	小川 泉	竹村 公児	市川 浩嗣	河野 茂	池田 進輔	昭和37年	電 気 通 信 科
西内省次郎	小嶋 厚	田村 豊純	昭和59年	河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
西森 敦男	片岡 雅樹	徳永 純平	機 械 科	河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
林 信弘	金山 知彰	戸田 博喜	市川 幸正	河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
藤田 靖人	川崎 哲史	中谷 浩明	昭和60年	河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
藤戸 健太郎	柳山 忠郎	中山 裕次	電 気 科	河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
正木 賢史	笹岡 孝亘	西森 昭一	高橋 彰治	河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
安並 大輔	佐竹 勝洋	西森 英文	平成9年	河野 茂	池田 進輔	昭和38年	電 気 通 信 科
山下 容平	高橋 昌志	野村 豪	機 械 科	河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
	中平 学	橋本 涉	池田 光洋	河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
	佐竹 昌志	廣井 雄二	岩崎 満博	河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
	高橋 貴志	藤原 啓志	大原 正人	河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
	中平 学	古谷 昌男	岡田 哲也	河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
	永田 孝二			河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
	長山 伸介			河野 茂	池田 進輔	昭和39年	電 気 通 信 科
	野口 友和			河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
	前田 眞			河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
	矢野 明			河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
	山岡あかね			河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和37年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和38年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和39年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和40年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和41年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和42年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和43年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和44年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和45年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和46年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和47年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和48年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和49年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和50年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
				河野 茂	池田 進輔	昭和51年	電 気 通 信 科
				河野 茂	池田 進輔	機 械 科	横山 幸一
				河野 茂	池田 進輔	北添 彌	三宮 重博
				河野 茂	池田 進輔	電 気 通 信 科	高橋 東光
				河野 茂	池田 進輔	竹田 敏字	山中 友一
				河野 茂	池田 進輔	仁木 孝彦	造 船 科
				河野 茂	池田 進輔	森木 茂雄	中村 慶郎
	</						

平成9年度 役員名簿

役職	氏名	卒コード	科別
相談役	田辺 博造	S18-013	機械2種
"	清家 寛	S18-010	機械2種
"	森岡 清	S26-020	機 械
名誉会長	尾崎 翹彦		
会 長	寺田 郁雄	S21-025	機械1種
副会長	竹内 良一	S25-014	機 械
"	下元 征夫	S37-129	電気通信
"	井上 耿介	S39-004	機 械
常任理事	森下 春茂	S21-019	機械1種
"	武内 徳雄	S23-034	機械2種
"	岡林 幸保	S28-038	造 船
"	高橋 三雄	S32-019	機 械
"	植田 幸子	S32-095	電気通信
"	山崎 吉広	S33-087	造 船
"	西森 昌身	S34-121	電気通信
"	山地 健三	S39-180	化学工業
"	竹崎 貞夫	S43-040	機 械
"	西山 庸一	S48-090	造 船
"	山岡 英樹	S57-034	機 械
理 事	中平 萬年	S18-017	機械2種
"	川添 泉	S21-012	機械1種
"	廣瀬 理	S21-029	機械1種
"	山田 豊	S21-035	機械1種
"	吉村 功	S21-081	機械2種
"	堅田 耕勇	S25-006	機 械
"	野瀬 公介	S31-099	電気通信
"	中西 安男	S32-023	機 械
"	江口 長靱	S33-041	機 械
"	松浦 政志	S35-065	機 械
"	笹岡 文子	S39-157	化学工業
"	長谷部俊夫	S41-168	化学工業
"	竹田 友一	S42-042	機 械
"	坂本 操	S43-030	機 械
"	梅原 正博	S47-116	化業工業
"	坂本 定浩	S54-009	機 械
監 事	坂本 臣三	S25-009	機 械
"	松浦 博	S37-104	造 船
会 計	津野 隆	S41-090	造 船

支 部 長 幡多：松浦 政志 窪川：川添 泉 須崎：山地 健三 高知：井上 健弘
 大阪：山田 豊 京滋：田村 武夫 中京： 関東：野瀬 公介

支部長連絡先

高知支部長 井上 健弘 S27-002 機 械 780 高知市横内2-47 0888-72-5075
 京滋支部長 田村 武夫 S29-050 造 船 523 滋賀県近江八幡市中小森町276-9 0748-33-0607

* * 訂正箇所や追加がありましたらお手数をかけますが同窓会事務局（井上耿介）

「TEL 0889-42-1861」「FAX 0889-42-1715」まで連絡を下さい。

校歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穩は
波静かなる錦浦
- 三、工業報理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

新聞広告の依頼（協賛金）

にご注意下さい。

最近、須崎工業高校〇〇周年記念等の新聞広告を出すので、協賛金をお願いしたいとの勧誘があります。学校、同窓会では、一切その様な広告は出しておりませんので、お断り下さい。

各種証明書の発行について

（母校事務室からの伝言）

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙（用紙は事務室に備付）を校長宛提出しなければなりません。（第二号十九頁の様式）

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書 一通につき四〇〇円
成績証明書 一通につき四〇〇円
単位修得証明書 一通につき四〇〇円
送料

送り先 千785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話（〇八八九）四二一八六一

FAX（〇八八九）四二一七一一

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたら、いつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

例年のことながら、各支部や会員の皆様へ原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございます。

会報「にしきうら」第22号を、お送り致します。会報届先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉書で事務局まで連絡下さいませようお願いします。

平成十年度も会報第23号を発行予定しておりますので、ぜひ皆様のご寄稿をお願い致します。尚、勝手ながら、原稿は九月五日までに事務局にお寄せ下さい。

来年は、二年振りに総会が、八月九日に開かれます予定。ぜひ、お互いに誘い合って、久方振りの旧交を温めるため集いましょう。

編集委員 津野 隆

会報「にしきうら」第二二号

平成九年十二月一日発行

発行所 高知県立須崎工業高等学校
同窓会事務局

印刷所 有限会社 笹岡印刷所
高知県須崎市東古市町二番十六番
TEL（〇八九）四二一〇二四四番